

國學院大學学術情報リポジトリ

発題2教員養成系学部における初年次教育のありかた
: 教員が考える初年次教育
(平成二十四年度國學院大學人間開発学会第四回大会
公開シンポジウム:
学生の可能性を引き出す初年次教育)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 寺本, 貴啓 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001238

発題②

教員養成系学部における初年次教育のありかた

―教員が考える初年次教育―

寺本 貴啓

國學院大學人間開発学部の寺本と申します。よろしくお願ひいたします。今回は、教員養成系学部における、「初年次教育のありかた」、副タイトルとして「教員が考える初年次教育」という内容で発表させていただきたいと思います。

今日の発表は、まず最初に、導入基礎演習という本学部で実施している授業の考え方と、一例のご紹介をいたします。次に本学部の教員に実施したアンケートから、教員が考える導入基礎演習やそれらの成果と課題について述べます。そして最後に本学教員が考える初年次教育のありかたについて述べていきたいと思います。お手持ちの資料をご覧ください。

まずは、導入基礎演習についてです。本学部には、「導入基礎演習」という授業がありまして、それが初年次教育の役割を担っている一つだと考えております。ここからは、導入基礎演習という授業についてご説明をいたします。

導入基礎演習とは

本学部の教員はこの辺はもう承知しているところなんですけれども、導入基礎演習という授業は、「大学における研究方法

の基礎を学ぶ」ということがテーマです。さらに見ると、入学直後の期待をより現実的にして不安を徐々に解消し、新しい人間関係を形成しながら、大学での就学方法の基礎を学ぶということを具体的な目標にしています。

この授業を実施するにあたって、「ルーム制」という十名程度のグループの単位で授業を進めております。そもそもルーム制というものはどういうものかというところ、私のほうが勝手にまとめたものなんですけれども、「一人の教員が七名から十名程度の少人数の学生を担当し、学生生活を円滑に送るための指導や助言を行ったり、事務手続きにおいて、書類の作成を行ったりする教職員が分担して学生を支援する制度」と解釈をしております。

つまり、導入基礎演習という授業は、担当する少人数の学生を「ルーム」という単位で分け、入学から半年間、学習面できめ細かな指導することになります。

スライドをご覧ください。導入基礎演習では、ここに示されている四つのコアとなる能力を身に付けていきます。

具体的にどういうことをこれまで行ってきたのかと申しますと、全十五時間で一番最初の講義は、全員の学生を集め大学の

例えば建学の精神や校歌学び、國學院大學の学生として、先輩の足跡を学ぶ内容になります。

次のスライドをご覧ください。これは、コンピュータを使った書籍検索などの図書館利用のガイダンスです。このような大学生として、どのような大学の施設や設備があり、どのように活用できるのかについても、本授業の中で学び、学生生活が円滑に送ることができるようにしています。

最初は、全体でのガイダンス的な内容が多く、どのルームも共通の内容で進めていきますが、しばらくすると教員ごと異なった内容に分かれていきます。教員はそれぞれ得意分野がありますので、各教員の得意分野を生かしながら教育活動を行っております。授業の目的は一つです。しかし、その目標に向かうためのアプローチの仕方が、教員によって異なるところが導入基礎演習の面白いところになると思います。

例えば、音楽が得意な先生であれば、音楽を通して指導することがありますし、理科であれば植物を育てる活動が入ることもあります。このように、ルームごとの特色を活かして学びをつくっていきます。別のスライド写真を見ていただくと、いくつかのルームが集まって、スポーツ活動も行っています。このような活動は、ルールづくりも含め、学生同士の人間関係づくりを大切にしていることがわかります。

また、他に教員養成に関わる内容として、小学校に行き小学生的の授業の様子を参観するルームもあります。これは、初等教育学科の場合、将来教員になることを目指している学生が多いため、キャリア教育の一環、自分の将来を見つめるきっかけとして実施しています。これは、一年生の最初の段階で、小学校

に行つてどういう仕事をするのか、子どもたちがどういう反応をしているのかということを見ることで、これからの大学での学びをイメージしやすいものとする意味もあります。スライドの写真は、生物が得意な先生が行っている内容になります。こちらは、実際に田植え体験に出かけています。こちらは、いろいろな目的が考えられると思いますけれども、例えば、私たちが食事をしているお米について、どれだけ苦労をして作っているのかとか、植物という視点でみたときにどうなのかとか、体験することでも考えるきっかけができ、学んでいくことができると考えられます。

さて、このように各ルームで特色がある導入基礎演習ですが共通の評価の観点があります。具体的に評価の観点を見ていただきますと（スライド8）、大学の歴史、建学の精神について説明ができる。基本的な発表の手順が説明できる。レポートの


Kokugakuin UNIV.

「導入基礎演習」とは

【知識・理解】

- ・本学の歴史・建学の精神について説明ができる。
- ・基本的な発表の手順が説明できる。
- ・レポートの作成手順が説明できる。

【思考・判断】

- ・関心事や課題に対して、様々な観点からの意見を参考に自身の意見を述べるができる。

【関心・意欲】

- ・初等教育学科においては教育に関心を広げ、問題意識を高められる。
- ・健康体育学科においては健康、体育、スポーツに関心を広げ、問題意識を高められる。

【態度】

- ・課題に対して問題意識を持って自ら調べる習慣を身につける。
- ・自分の考えとは異なる他者の意見を検討できる。

【技能・表現】

- ・自身の考えや調査内容を第三者へ分かり易く説明することができる。
- ・「調べる・読む・聴く・要約する・理解する・書く」ことに関する基礎的な技術が身につく。

作成手順が説明できるというような知識理解もあれば、しっかりと意見を述べることもできるといった思考についての観点や、関心・意欲を高めるといった評価の観点もあります。

「導入基礎演習」の具体的な内容

このように各教員がそれぞれのルームで様々なアプローチで授業を行っております。ここからは、私たち坂本・寺本の二人で行っている内容をご紹介します。

私たちのルームでは、次の五つの内容を指導できればと考えております。後でもお話ししますが、導入基礎演習の具体的なアプローチはルーム担当の先生方によって異なります。目標は同じなのですが、一つの事例としてご覧いただければと思います。

一つ目は、学生が大学の生活、設備、サービ스에慣れることです。大学にすぐ入ってきた学生ですから、大学で何ができるのか、長い目で見たときに、どういうサービズが受けられるのかについて一年生のうちから順番に教えています。例えば、就職を見越して、関係する窓口や掲示等を板紹介します。ここでこういう話が聞けます。ここにこのような内容を揭示しますと紹介します。また、図書館であれば、本学の図書館だけではなくて提携している市立や他大学の図書館が活用できることなども紹介します。つまり、自分で勉強していく環境づくりに関する情報を最初の段階に提供しています。もちろん、教務関係や、生活関係に関しても大学のサービズの話をしていきます。

二つ目は、レポートの表現力、読解力を身に付けることです。

これに関しては、後でご説明します。三つ目が大学生としての意識を高めること。これまでの高校生とは少し違って、自分で判断して行動するので、この四年間の生活をどのようにするか考えようという話です。四つ目は、各ルームが特に重視しているのですが、友人教員と仲良くなることです。五つ目は、各教員やることが違いますので、担当教員の得意分野を伝えることです。

具体的には次のスライドのようにしています(スライド11)。
第一回は、全体で校歌の練習をしたり大学の理念を話したりします。第二回以降は、七、八人のルームごとでの活動に入り、私たちのルームでは、自己紹介をしながらお互いのことを知る時間に行っています。もちろん教員も入って、これから一緒に仲良くやっていく計画はこのようにするよという話をします。

 Kokugakuin UNIV.	
本ルームの「導入基礎演習」	
第1回	全体
第2回	ルームで自己紹介
第3回	学内ツアー(教務・就職を重点に)
第4・5回	図書館ガイダンス(複数ルーム合同)
第6回	畑作り
第7・8回	交流・レポートの書き方指導
第9回	畑作り
第10 - 13回	交流・レポートの書き方指導
第14回	収穫祭
第15回	総合講座(集団宿泊研修)事前指導 (H24前期)

第三回は学内ツアー。先ほど述べたように、教務、就職等を、あまり全体のガイダンスで説明しない話を中心に進めています。第四回、第五回は、図書館ガイダンス。その後、第六回、第九回、第十四回に関して私たちのルームの場合は、理科の教員が担当していますので、他の理科教員のルームと合同で畑作りを入れていきます。これは、学生同士の交流、植物を育てていくという目標に向かって、みんなで力を合わせていくことになります。

一番回数が多いのは、やはりレポートの書き方とか発表の仕方という指導になります。

学習の場所ですが、スライドの写真を見ていただきますと、研究室でこのような雰囲気レポートのやり方とか勉強しています。図書館ガイダンスの場合は、いくつかのルームと一緒に、コンピューター教室で図書館の書籍の検索の仕方を勉強したり、実際に図書館に行つてどこにどのような本があるのか、これから使うであろう本の場所について紹介しています。次の写真をご覧ください。こちらは畑を耕して、これから植物を植えるところです。終わったら、食事を作ってみましょうというように半期を通してみんなで一緒に協力して進めているということです。

教員が考える「導入基礎演習」

さて、ここからレジュメの二番に進みます。「教員が考える導入基礎演習」ということで、本学部のED推進事業として導入基礎演習を担当する教員二十八名にアンケートをとつ

ています。今回の発表は、回収途中での分析のため、全体の七十五%で行っています。現在ではほとんど集まってお聞きしてしますので、新しいデータを入れれば結果が多少変わると考えられます。ただ、方向性はほとんど変わらないと思っていますので、全体の傾向としてご覧いただければと思っています。

具体的には、四つの質問を行いました。一つ目は、「導入基礎演習で何を育成したいと考えて、実施していますか」ということです。今、導入基礎演習してまずけれども、各教員がどのような意識で実施しているのかということです。二つ目が、「導入基礎演習でどのような内容を扱ったか」ということです。具体的に一時間目から十五時間目まで何を行ったかについて調査しています。三つ目が「今年度導入基礎演習を実施した結果、どのような手応えがあったか」、「改善するとしたらどのような点を改善したらよいと考えるか」ということです。四つ目は、「大学の初年次教育、入学後の初年度教育で必要なことはどういうことだと考えるか」ということです。

具体的にこれらの四つの結果について話をしていこうと思います。まず、「導入基礎演習で何を育成したいと考えて実施していますか」という質問ですが、これは自由回答にしています。そのため、先生方の意識が特に高いものが書かれているため、意識があったとしても全て書ききれないことがあることををご承知おきいただきたいと思います。分析ですが、長い文章の中から育成したい項目が複数見られた場合、それぞれの項目を一カウントとします。複数あれば二カウント、三カウントと増え、一人について複数カウントされるということです。

提出された全教員の文章を分析しますと、次の七つの項目に

分かれていました（スライド15）。分け方は分析のしかた次第の部分もあると思うのですが、今回の私の分析の場合は次にように分けられたということでお聞きいただければと思います。なお、スライドは多かった順です。一番多かったのが、大学での学習技能、表現力、体力というものを身に付けたいということです。二番目は、大学生としての学びの意義や理解、学習意識の向上についてです。つまり学習における意識面を高めるといのが二番目に多かったということです。三番目は、コミュニケーション能力です。人間関係を作ったり、居場所を作ったりする目的で導入基礎演習を考えているということです。四番目は、大学生活への適応の促進です。大学のサービスや施設、設備の紹介をし、大学生活に入りやすいようにしていくというのが四番目になります。五番目は、社会人としての常識、マナーを身に付

Kokugakuin UNIV.

教員が考える「導入基礎演習」

導入基礎演習でなにを育成したいと考えて実施しているか。

- 1 大学での学習技能（表現力・読解力）
- 2 大学生としての学びの意義の理解や学習意識の向上
- 3 コミュニケーション能力（人間関係づくり・居場所づくり）
- 4 大学生活への適応促進（サービスや施設・設備の紹介）
- 5 社会人としての常識・マナー
- 6 大学独自（理念・校歌など）
- 7 キャリア教育

15

Kokugakuin UNIV.

教員が考える「導入基礎演習」

- 1 大学での学習技能（表現力・読解力）
 - ・文献の読みかた
 - ・レポートの書きかた（基本・表現力）
 - ・ディスカッションのしかた
 - ・調査のしかた
 - ・他人の発表の聞き取りかた
 - ・情報の整理のしかた
 - ・情報の活用のかた
 - ・プレゼンテーションのしかた
- 2 大学生としての学びの意義の理解や学習意識の向上
 - ・学習の意義を考える
 - ・学習意欲を高める
 - ・大学での学びかた（高校とは異なる）
 - ・大学生としての意識の向上

16

Kokugakuin UNIV.

教員が考える「導入基礎演習」

17

けさせることです。六番目は、「大学独自」と勝手に命名しましたけれども、例えば大学や学部の理念とか校歌とか、そういう大学独自のものが大切だと挙がっていました。最後の七番目は、キャリア教育です。この学部は教員養成系であるため、これから先、教員になるという目標があるわけですから、先ほどの写真にあったように、今のうちから学校に行き、将来の「教員」という仕事を意識させることが挙がっていました。もう少し具体的に見ていくと、一つ目の一番多かった「大学での学習技能」では、文献の読み方、レポートの書き方、ディスカッションの仕方、調査の仕方、他人の発表の聞き取り方、情報の整理の仕方、情報の活用のかた、プレゼンテーションの仕方。羅列して挙げてみると、これらのものがありません。二つ目の「大学生としての学びの意義の理解や学習意識の向上」

Kokugakuin UNIV.

教員が考える「導入基礎演習」

3 コミュニケーション能力
(人間関係づくり・居場所づくり)

- ・人間関係構築力を身につける
- ・人と関わる機会づくり
- ・居場所づくり
- ・協力して活動する意味(楽しさ・難しさ)を知る
- ・友人や教員と仲良くなる

18

Kokugakuin UNIV.

教員が考える「導入基礎演習」

4 大学生活への適応促進
(サービスや施設・設備の紹介)

- ・大学生活へ円滑な適応
- ・大学の施設や設備を知る
- ・大学の各種サービスを知る
- ・自分で学習するための環境を整える

19

では、学習の意義を考える、学習意欲を高める、大学での学び方、大学生としての意識向上がありました(スライド17)。三つ目の「コミュニケーション能力」では、人間関係構築力を身に付ける、人とかかわる機会を作る、居場所を作る、協力して活動する意味を考える、楽しさとか難しさを知る、友人や教員と仲良くなる、というものが挙がっていました(スライド18)。四つ目の「大学生活への適応促進」では、大学生活への円滑な適応、大学の施設や設備を知る、サービスを知る、自分で学習するための環境を整える、ということが挙がっていました(スライド19)。五つ目以降の内容はご説明しなくても分かると思いますが、「社会人としての常識・マナー」「大学の理念など」「キャリア教育」と続いています。

具体的に各項目の数値を見ていきましょう。文章の中に各

項目が書いてあれば一とカウンとしていきますので、たとえば一つの文章でも一つから三つカウントされる場合もあります。最終的に全てカウントすると五十九の項目が抽出されました。そしてこの五十九項目を内容ごとに分類してみると、七項目になり、次のような割合で出てることがわかりました(スライド20)。一つ目の「大学での学習技能」は、一番多い四十%でした。その次の「大学での学びの意義の理解や学習意識の向上」「コミュニケーション能力や大学での居場所づくり」では、十九%。これ以降は、十一%、五%、五%、二%と続いています。つまり、これらの結果から学習技能を高めたいという教員側の考えが強いということがわかります。

Kokugakuin UNIV.

教員が考える「導入基礎演習」

導入基礎演習でなにを育成したいと考えて実施しているか。

(全59項目中)

1	大学での学習技能(表現力・読解力)・・・	23(40%)
2	大学生としての学びの意義の理解や・・・	11(19%)
	学習意識の向上	
3	コミュニケーション能力・・・	11(19%)
	(人間関係づくり・居場所づくり)	
4	大学生活への適応促進・・・	7(11%)
	(サービスや施設・設備の紹介)	
5	社会人としての常識・マナー・・・	3(5%)
6	大学独自(理念・校歌など)・・・	3(5%)
7	キャリア教育・・・	1(2%)

20

「導入基礎演習」の成果と課題

それでは、次に進みたいと思います。実際導入基礎演習の成果と課題について、本学の教員にアンケートをしています。これらのアンケートを読み、今回はその中でも代表的なものを挙げさせていただきます。まず成果についてです。「調査、まとめ、文章作成、発表に関しては十分とは言えないが、成果はあったと思われる」「人間関係の深まりが見られ、会話なども活発となり、それぞれの個性も互いに理解し合えるようになり、教員との関係も深まって非常に大きな手応えが感じられた」このように、少人数での指導により、学習能力や人間関係づくりに関して、教員側として大きな手応えがあったという意見が多数ありました。

一方、課題ですけれども、「優れた学生がいる中で、彼らをもっともっと伸ばしたいと考えていたが、追いつけない学生への対処に手間取って、彼らを退屈させてしまっている」という意見がありました。また、「発表内容をレポートとして提出させているが、文章作成指導の時間がうまく取れない」「毎年、学生の反応は違うので、学生個人の資質や考え方によって指導が変わっていく」というものもありました。

教員が考える初年次教育のあり方

さて、最後のテーマに進めたいと思います。本学部の教員が考える初年次教育のあり方についてです。これは、先ほどの導

入基礎演習とは直接は関係ありませんが、初年次教育についてのようによろしく考え、初年次の段階に何をすればよいのかについてアンケートを採りました。記述された文章を分析しましたが、最初に分けたカテゴリーで分類することが可能だったので、そのまま同じカテゴリーにしています。最初は七項目でしたが、今回は、キャリア項目がなくなり六項目になっています。数も四十八項目に減っていますので、少し文章の量が減っていることがわかります。ただ、導入基礎演習の先ほどのアンケートの出現頻度の順番は変わらないようです。ただ、少し特徴があったのは、二番目の「大学生としての学びの意義や理解」です。

「学習意識の向上」

という意識面を高めたという教員側の意識が最初の導入基礎演習のアンケートより高くなっているようです。つまり、学生の意識面をもっと高めたいという気持ちをもった教員が多かったということになります。

 Kokugakuin UNIV.	
本学部教員が考える 初年次教育のありかた	
大学の初年次教育（入学後の初年度の教育） で必要なことはどういうことだと考えるか。	
(全48項目中)	
1 大学での学習技能（表現力・読解力）	15
2 大学生としての学びの意義の理解や 学習意識の向上	12
3 コミュニケーション能力 （人間関係づくり・居場所づくり）	9
4 大学生活への適応促進 （サービスや施設・設備の紹介）	6
5 社会人としての常識・マナー	4
6 大学独自（理念・校歌など）	2

られました。

もう少し具体的にご紹介したいと思います。これから学ぼうとする分野について、「幅広い知識や技術の習得方法」「新しい学びの魅力に気付き、これからの学びに期待と意欲を持って取り組もうとする態度を養うこと」「対話的な学びができる人間関係を経験すること」を初年次教育に大切にしていきたいと挙がっていました。また、「4年間共に学び合っていく仲間との間に、それぞれ個性が生かされていくような人間関係を築き、先々誰かが困難に直面したときには、支え合っていけるような連帯感を培うことが必要である」という意見もありました。

このように、いろいろ見ていきますと、初年次教育に求める方向性は、人間開発の先生方は大体同じであることが、文章から理解ができました。しかし、先ほどの七つの挙げがっていた項目のすべてが、全員の教員がもたなければいけないわけではありませんが、教員同士で共有し

Kokugakuin UNIV.

本学部教員が考える 初年次教育のありかた

これから学ぼうとする分野についての幅広い知識や技術の習得方法。新しい学びの魅力に気付き、これからの学びに期待と意欲をもって取り組もうとする態度を養うこと。対話的な学びが出来る人間関係を経験すること。

4年間共に学び合っていく仲間との間に、それぞれの個性が生かされていくような人間関係を築き、先々、誰かが困難に直面した時には支え合っていけるような連帯感を培うことが必要である。

24

ていく必要はあるだろうというのがアンケートを読んでの感想でした。以上です。

(てらもとたかひろ・國學院大學人間開発学部初等教育学科専任講師)